

プロ級の腕前のギターを生かして ブラジルの日系社会でレクリエーション指導

元周南市職員

貞弘昌理さん (67歳)
平成17年3月定年退職

昭和20年満州奉天市生まれ。昭和47年、周南市役所入庁。18歳からはじめたギターでは、22歳と30歳でソロ演奏会を開催。退職時には記念コンサートも開いた。35歳を過ぎた頃からレクリエーション活動として、幼稚園、小学校、老人クラブ、福祉施設などをまわるように。平成18年9月には、NHKBS放送番組「あなたが主演 音楽のある街で」に出演。平成19年からJICAシニア海外ボランティアとして、ブラジルに派遣。2年間の活動を経て帰国。



ブラジルのリオのカーニバル
2008年2月

—貞弘さんは2007年から2年間、JICA（独立行政法人国際協力機構）シニア海外ボランティアとしてブラジルに派遣されていたということですが、参加はいつ頃から考えられていたのですか？

定年退職の2年くらい前からです。市役所で国際交流の仕事を担当していたことや、自宅で外国人のホームステイを受け入れていたことなどもあり、できれば参加したいと思っていました。

—参加に向けて、何かご準備をされていたのですか。

具体的には何もしていないですね。たまたま新聞で見たJICAのシニア海外ボランティアの説明会に参加し、そこで初めて「日系社会シニア・ボランティア」という枠で募集があることを知りました。

「日系社会シニア・ボランティア」とは、世界最大の日系人居住地があるブラジルをはじめとする中南米各国で、日系社会に暮らす移住者や日系人の地域社会発展に協力するのが役割です。その中で、主に高齢者を対象にレクリエーション指導をする職種だったら、自分にもできるのではないかと思いついて応募しました。語学が苦手だった私にとっては、日系社会なら日本語が通じるということも決め手となりました。

—派遣されるまでのスケジュールを教えてください。

2006年11月に願書を提出してから一次選考、二次選考とあつて、翌年2月に無

事合格通知が届きました。シニアの場合、健康診断をパスするのがなかなか難しいようですが、私は健康上特に問題がなかったこともあり、すんなりと合格できました。

その後、4月9日から27日まで横浜にあるJICAの研修所で、派遣前訓練として現地の言葉であるポルトガル語やコミュニケーション技法、調査手法、健康管理、安全管理などの講習を受けました。ブラジルに向けて出発したのは、約2カ月後の7月4日です。

—ブラジルでは、具体的にどのような活動をされていたのですか。

サンパウロにあるブラジル日系老人クラブ連合会に、社会福祉の分野で派遣されました。同会はブラジル国内にある48の日系老人クラブをとりまとめている組織で、私は各地の老人クラブから要請を受けて出向きます。同地におけるレクリエーション指導者として私は3代目で、前任者は折り紙や自分史などを指導されていたそうです。

私は得意のギターで、日本やブラジルの曲を演奏したり、指導することをメインに活動していました。日本の唱歌や演歌を私のギター伴奏で歌ってもらおうと、皆さん、気持ち良く歌ってくださいます。特にリクエストが多かったのは「故郷」と「北国の春」。中には望郷の思いから涙を流される方もいらっしゃいました。

ギター演奏のほかにも太極拳やパネルシアター、指や顔面を使った体操、カラオケな



ブラジルでの老人クラブ
レクリエーション。
2009年4月



退職記念コンサート。
2005年12月

●1日のスケジュール

6:00~	起床、朝食、犬の散歩、新聞、テレビ
8:10	出勤
17:30	仕事終了 散歩しながら帰宅
18:30	夕食
19:00	ギター練習、翌日の準備
22:00	就寝



2006年8月。
「あなたが主役 音楽のある街で」
に出演

●1週間のスケジュール

月曜～金曜	勤務、要請があれば施設での公演
土曜・日曜	ギター練習、施設での公演

※月数回は、民生児童委員会 等



ブラジルでのお別れコンサート。2009年5月

ど長年続けてきたレクリエーション指導の経験を生かした活動への要請も多く、老人クラブ以外の婦人会や日本語学校、小学校など、スケジュールの調整には苦労しました。

——ブラジルでの日常生活はいかがでしたか。

アパートで一人暮らしをしていましたが、同じ建物に日系社会シニアボランティアの方も住んでいたのは心強かった。日本人の多い地区で日本食の店も多いですから、食事は特に困らなかつたですね。ただし、米は日本の水稲と違って陸稲だったので、胃を壊しました。

——ブラジルは治安が良くないとも聞きますが…。

確かに治安は悪いですね。レクリエーション指導の要請を受けてブラジル各地へ移動するのも一人ですし、私の場合大きなギターを抱えているためどうしても目立ってしまいます。いつもビクビクしながら移動していましたが、幸い、危険な目に遭うことはありませんでした。派遣された人の中には、目の前で殺人事件が起きて怖い思いをされた方もいましたが。

——帰国後は、どのように過ごされているのですか。

市役所を定年退職してから再雇用で公民館に勤務しており、ブラジルから戻っても同じ公民館で働いています。その合間をぬって、高齢者施設をまわっています。と言うより、施設まわりの合間に仕事をしていると言ったほうがいいかも知れません。レクリエーション指導で、以前は保育園や幼稚園もまわっていたのですが、少子化の影響か最近はお人施設のほうが増えています。

その他、民生児童委員、社会福祉協議会委員、周南市レクリエーション協会委員なども務めています。

——シニア海外ボランティアに参加されたことで、ご自身の定年後の生活にどんな影響がありましたか。

一番の収穫は自信がついたことです。周囲の誰も行ったことがない国へ行き、そこで2年間仕事をしてきたということが大きな自信につながりました。ブラジルでのさまざまな経験は、帰国してからの高齢者施設まわりでも生かしています。皆さん、興味をもつて聞いてくれます。

——定年退職後の生活を充実させるために必要なことは何だと思えますか。

地域に役立つことを何か一つでもやれば良いと思います。定年退職後は生活の舞台が地域社会となるわけですから、そこで居場所をつくるためには、地域に役立つ何かが必要ではないでしょうか。

もう一つお勧めしたいのは、自分史を書くことです。誰かに見せるというのではなくても、自分自身のために、覚えていることを何でも書いておくことが、いずれ役立つと思います。これからの時代は定年延長で70歳まで働くことになるかもしれません。その中で、余裕があれば地域に恩返しすることが大切だと思います。